

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	本事業の上位目標としては、「マンセラ郡において、教育環境整備・向上を通じ基礎教育を強化する」と設定し、本事業では、計画通り、9 校の校舎を再建すると同時に、教師、PTC(日本の PTA に相当)及び生徒会メンバー(計 188 名)に対して研修を実施し、その能力と意識の向上を図った。また、事業期間中ニュースレターを 3 回発行し、支援対象校や郡、州レベルの教育局への配布を通じ、教育関係者や地域住民に教育に関するニーズや課題を共有する機会を提供、関係者間の連携を促進した。ソフト面・ハード面の両面からマンセラ郡の教育環境を整備・向上させ、同郡における学校教育を包括的に強化できたことから、上位目標は達成できた。
(2) 事業内容	(ア) <u>学校校舎の再建及び教育設備の充実</u> パキスタン国ハイバル・パフトゥーンハー州マンセラ郡の 6 地区・9 村において、2005 年の震災で倒壊した公立学校のうち、Non-strategy¹校とされる学校の中から、計 9 校を再建した。 【再建校】 女子学校 3 校 (GGPS² Gurwal、GGPS Cheene Pairan、GGMS Mundagucha) 男子学校 6 校 (GHS Nawazabad*、GMS Mera Amjad Ali、GMS Kajila、GMS Kangar Banda、GMS Kiamal、GPS Hasso) (*) GHS Nawazabad 校については、地域で唯一の高校であることから、女子生徒も在籍している。 建設にあたっては、郡政府公認機関であるペシャワール工科大学により示された基準に則り設計図を作成し、マンセラ郡の政府機関 Communication and Works Department に承認を受けた。建築仕様としては、鉄筋コンクリート、スチールメッシュ耐震補強構造となっている。耐久年数は約 60 年程度³で、優れた耐震性も実現している。校舎には、校門、標識、トイレ、水タンク、浄水層、擁護壁、花壇を整備した他、教育局の基準に則った規格の教師及び生徒用の机と椅子、資料棚等を各学校に整備した。 【9 校に整備した学校家具】 ・生徒用 3 人掛けの椅子と机 350 セット ・高校の実験室の椅子 40 脚 ・事務椅子 27 脚、事務机 4 台 ・教員用椅子と机 26 セット ・職員室用椅子 10 脚 ・校長用机 1 台 ・戸棚 11 台、告知板 11 枚 校舎及び学校資機材、家具については、順次完成した学校から、マンセラ郡教育局に管理が譲渡され、政府の責任において管理運営されている。これら移譲に際しては、譲渡式を開催し、郡政府と書面にて確認を行った。なお、校舎を含め、こうした支援物資が大切に使用され、学校設備が適切に管理されていくよう整備の仕方などを示した 9 種類の啓発ポスターを作成し、各学校に掲示した。(ポスター内容詳細：添付 1 参照)

¹パキスタン政府による再建のための予算の目途が立たない学校の名称。

² GGPS=Government Girls Primary School (公立女子小学校)、GPS=Government Primary School (公立男子小学校)、GMS=Government Middle School (公立男子中学校)、GHS=Government High School (公立男子高校)

³ 修繕を加えることで半恒久的に使用することが可能である。

	(イ) <u>教師及び保護者への研修実施と生徒会の組織化</u> 再建した 9 校において、質の高い教育を提供できるよう、支援対象校の教師、PTC 及び生徒会に対して、以下のとおり研修を実施した。 【各種研修と参加者】 教師研修：全校教師対象 2 日間（2013 年 12 月 28 日、29 日）、 参加者数計 44 名（男性 34 名、女性 10 名） PTC 研修：各校対象 2 日間（2013 年 11 月 2～12 日の間の 2 日間、および 11 月 26 日、27 日の 2 日間）、参加者数計 72 名（男性 48 名、 女性 24 名） 生徒会（SRC）研修：各校対象 1 日（2013 年 9 月 30 日、10 月 1 日、10 月 2 日、10 月 3 日、10 月 10 日、11 月 12 日）、参加者数計 72 名 （男性 48 名、女性 24 名） 研修では、講義だけでなくグループワークやディスカッションを取り入れた参加型となるよう工夫し、トピックとしては、教師研修については、近代的教授法の習得、教師の意識改革やクラス運営方法を取り上げた。また、PTC 研修では、保護者の学校における果たすべき役割や PTC 予算の管理法、女子教育の重要性について取り上げた。生徒会対象の研修では、生徒の代表による生徒会を組織化し、生徒の主体性の向上を目的とし、学校における生徒会の役割や責任について学ぶ、生徒参加型のトレーニングを実施した。（研修内容詳細：添付 1 参照） (ウ) <u>ニュースレターによる地域の経験共有</u> 再建した学校の各学区の抱える教育に関するニーズや課題への取り組みの紹介、成功事例を掲載したニュースレターを 3 回、240 部発行した。ニュースレターは、学校、PTC、州及び郡レベルの教育局に配布した。（ニュースレター第 2 版：添付 2 参照）						
(3) 達成された成果	(ア) <u>教育インフラの整備と基礎教育へのアクセスの改善</u> 2005 年の震災で倒壊したままとなっていた学校のうち 9 校の校舎を再建し、山間部の厳しい天候のもと、震災から 8 年間にわたり、青空教室や破損したテントでの就学を余儀なくされていた 5～16 歳の生徒 1025 名（男子 681 名、女子 344 名）が、耐震性に優れた校舎において基礎教育を享受できるようになった。 再建した校舎には、校門、標識、トイレ、水タンク（もしくは井戸）、浄水槽、擁護壁、花壇、啓発ポスターを整備したほか、教師及び生徒用の机と椅子、資料棚等を整備した。これにより、安全な校舎と新しい設備により、快適な環境で生徒が学習できるようになった。特に、9 校に対して、計 18 箇所のトイレや水タンク、井戸等の水回りを整備したことで、安全な水へのアクセスを確保し、衛生面の整備につながったことから、様々な関連疾病の恐れが軽減された。擁壁やトイレがないことが女子生徒の中退の原因の一つとなっていたため、これら施設を整えたことで、女子生徒の復学につなげることができた。加えて、安全で快適な校舎を整備したことにより、生徒、教師ともに毎日の出席の改善が確認できている。震災後、校舎や学校設備の未整備により、青空教室という屋外での過酷な学習環境の影響から中退した子どもたちも新校舎の完成により、復学するケースも確認できている。 再建前と再建後の生徒数（2014 年 4 月時点） <table><tr><th>学校名</th><th>生徒数</th><th>増加数</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	学校名	生徒数	増加数			
学校名	生徒数	増加数					

	再建前	再建後	
GHS Nawazabad	254	290	36
GMS Mera Amjad Ali	86	125	39
GMS Kajila	97	170	73
GPS Kangar Banda	80	80	-
GPS Kiamal	50	60	10
GPS Hasso	70	70	-
GGPS Gurwal	32	60	28
GGPS Cheene Pairan	45	62	17
GGMS Mundagucha	40	108	68
合計	754	1025	271

(イ) 教師の能力向上と学校活動の質向上

支援対象校 9 校の教師、PTC 及び生徒会に対し、教育に関する意識の向上や、教授法、学校活動における各自の役割、責任などをテーマとした研修を実施した。研修を通じて、PTC、教師、生徒会の意識とスキルが向上し、学校に関わる各アクターが、より良い教育環境を主体的に整備していく目標を共有することができた。

教師研修では、一方向的な教育法ではなく、生徒との相互交流に重きを置いた最新の教育方法を紹介した⁴。教師は新たな教育方法を学び、積極的に教育方法の向上に努めるべきであるという意識が醸成された。また、複数学年の教授方法やカリキュラム作成、模擬授業などの実践的な研修内容について、参加した教師の 92%が満足したとの回答を得た。

PTC 研修では、これまで形骸化していた各学校の PTC 活動を再活性化することができた。研修により、保護者らが学校における PTC の一員として役割を自覚したとともに、学校運営にかかる PTC の重要性について認識することができた。研修後は、PTC は定期的に会合を開くようになり、学校運営について、必要な介入を行える体制が築かれた。また、教育局との連携も促進され、子どもの学校への登録キャンペーンにも取り組んだ。

生徒会研修では、教育の権利や、生徒会の役割などに関して、子どもたちの理解を促すため、ディスカッション、ゲーム、ロールプレイを取り入れ、楽しみながら、学べるよう工夫した。研修の結果、生徒会メンバーは、学校における生徒自身の役割を認識しただけでなく、地域においても生徒たちが重要な役割を果たせることに気づき、自信を深めるなど肯定的な変化が確認できている。(生徒への聞き取りより。)

このように教師、PTC、生徒会といった学校に関わる各アクターに実践的な研修を提供したことで、教師の能力や意識が向上し、保護者や生徒自身の学校への積極的な参画も確認され、今後も学校活動の質の向上にむけ、各者が取り組む体制を構築できた。

(ウ) 地域社会における意識の向上と活性化

ニュースレターを発行・回覧することで、マンセラ郡の各学区における教育分野の情報の共有を図り、良い意味での各学校間の競争意識を刺激し、地域の教育環境改善へ貢献した。教師、PTC、生徒会を巻き込んだ学校行事の紹介などは特に学校間において良い影響を与え、他校の学校行事の活性化に

⁴ パキスタンでは、前近代的な一方通行の威圧的な教授方法がドロップアウトの原因になっていることが指摘されている

	繋がった。更に、ニュースレターを通して、各校の取り組みに対して教育局から激励のコメントも寄せられ、学校と教育局のコミュニケーションも促進することができた。 なお、(ア)～(ウ)の活動を通じた直接裨益者は 5～16 歳の生徒 1,025 名(男子 681 名、女子 344 名)、再建校の教師(44 名)・PTC(72 名)及び生徒会(72 名)、間接裨益者は約 69,290 名である。
(4) 持続発展性	・再建した学校はすべて公立学校であり、校舎の完成後、提供した学校家具と共にマンセウ郡教育局に譲渡した。今後も教師の給料やその他運営費などは、政府の予算が振り分けられており、今後も政府により学校の管理運営がなされてゆく。 ・研修により、PTC、教師、生徒のそれぞれの意識が向上したことで、共により良い教育環境を創造していく体制が確立された。特に PTC は、本事業を通じ、本来与えられていた役割を自覚したことで、今まで果たしてこなかった PTC メンバーとしての役割を務め、地域の保護者代表として学校運営に積極的に関与していく体制を構築できた。